

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

事業名 ドローンを活用した消防団活動支援事業

自治体名

熊本県湯前町

消防団名

湯前町消防団

1 事業の目的

ドローンを活用して、消防団の「鳥の目」になり、現場で活動中の消防団員に現場の全容を共有することで危険を回避させ、また効率的な活動を支援するもの。

2 事業内容

消防団員は、活動する現場において地面と平行方向にしか現場の状況を把握できないため、被害の全容把握が困難である。

周囲の状況把握が困難となった場合、例えば火炎に囲まれたり、土砂崩壊など二次災害に巻き込まれる危険もあることから、団員の「鳥の目」の役割としてドローンの導入に取り組んだもの。

ドローンの導入にあたり、ドローンをより安全に運用するため「二等無人航空機操縦士」を育成した。

ドローンについては、赤外線カメラや高倍率ズーム機能を有するドローンを選定し導入。

導入したドローンを、既に導入していた可搬型ビデオ会議システムと接続して、現場指揮本部をはじめ役場庁舎でも精度の高い情報を共有できることを確認できた。

また、消防団活動の普及啓発のため、小学校に出向いて、消防団の活動紹介とともに本事業で導入したドローンの展示を行い、小学生が消防団に興味を示すような機会を設けた。

3 事業成果

ドローンがこれまで見えなかった範囲を「鳥の目」になり、消防団員に現場の全容を視覚的に明らかにしてくれるようになり、これまで見えなかった現場における危険箇所を把握できるようになった。

また、ドローンを映像伝送可能なビデオ会議システムと連携させることで、現場指揮本部をはじめ、庁舎内でも現場の精度の高い情報を共有することができることを確認できた。今後、消防団員の安全の確保や活動の効率化と省力化が期待される。

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
定期訓練	回	5	3	操縦訓練及び点検の実施
普及啓発	回	1	1	小学生に消防団活動紹介
実動訓練	回	2	2	大型施設消火訓練 町防災訓練
パイロット育成	人	4	4	二等無人航空機操縦士



ドローンとビデオ会議システムとの連携



小学校での消防団活動紹介



定期の操縦練習の様子